

LMcorsa Race Report

Super GT 2018 Rd,6 SUGO GT 300Km



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA



● M.NITTA
● Y.NAKAYAMA

9月16日 | 天候:晴れ | 気温: 26度 | コース:スポーツランドSUGO | 路面温度:37度(ドライ)



● H.YOSHIMOTO
● R.MIYATA

Final Day Summary

予選で9番手を得たSYNTIUM LMcorsa RC F GT3はライバル勢に対してトップスピードが劣り、ブレーキの不調もあるなかで二人のドライバーが力を出し切って、スタート順位と同じ9位でフィニッシュ。

Final Day

年間8ラウンドのシリーズ戦となる2018 AUTOBACS SUPER GT。終盤戦の幕開けとなる第6戦の「SUGO GT 300km RACE」の決勝レースが9月16日(日)に実施された。

昨年のスポーツランドSUGOラウンドでは予選で3位を獲得し、セーフティカーが入り波乱の展開となった決勝レースでも5位を獲得したSYNTIUM LMcorsa RC F GT3。相性の良いコースということで、この一戦に臨むチームの士気は



高かった。9月15日(土)の午前に行なわれた公式予選では吉本大樹選手と宮田莉朋選手の二人で計40周を走行し、セットアップを進めながら1分19秒920のタイムを記録して10番手となった。

公式練習の途中から降りだした雨は14時から始まった予選の前には止み、コースの一部にウエット路面が残るもののレコードラインは乾き、ドライコンディションで競われた。予選Q1は宮田選手のアタックで無事に突破。予選Q2は、マシンをアジャストして吉本選手がSYNTIUM LMcorsa RC F GT3のステアリングを握った。吉本選手は、ややオーバーステアだったというが、1分18秒949で9位となり300kmの決勝レースは9番グリッドからスタートすることになった。

Final Day

16日は事前の天気予報だと雨の可能性もあったが、午前中から日差しが差し込み汗ばむほどの天候となった。スポーツランド SUGO には2万8500人の観衆が集まり、SUPER GTのプログラムは10時35分の選手紹介から始まった。11時5分から12時までのピットウォークも多くの来場者で人垣ができるほどの盛り上がりを見せる。決勝レース前の最終チェックとなるウォームアップ走行は、12時25分から12時45分に掛けて行なわれた。ウォームアップ走行は、吉本選手と宮田選手の二人が SYNTIUM LMcorsa RC F GT3 に乗り、300kmの決勝レースへの準備を整えた。



決勝レースは、予定通りの14時にパレードラップによって幕を切る。スタートドライバーを担った吉本選手は、1周目に早くも1台をパスして8番手に浮上する。トップを走る61号車のSUBARU BRZと2番手の10号車GT-Rは後続を引き離したが、3番手から15番手付近までは10秒以内のテールトゥノーズでレースは展開する。SYNTIUM LMcorsa RC F GT3はライバル勢

に対してトップスピードが劣っていたため、ラップタイムこそ引けを取らないが先行車を抜くまでにははいらない。9周目には88号車のランボルギーニにパスされてしまうが、18周目に再び8番手となり、22周目になると徐々にルーティンのピット作業に入るチームが現われる。吉本選手はタイヤのグリップ感が低くなってきたが、丁寧なドライビングで周回を続ける。そして、31周を走行してピットインを行ない、宮田選手にバトンタッチ。



4本のタイヤ交換と給油作業をミスなくこなして、チームはSYNTIUM LMcorsa RC F GT3をコースに送り出す。タイヤのウォームアップも終わってペースアップしようとしたときに、宮田選手は最終コーナーでコースアウトを喫してしまう。ポイント圏内を目指すライバルとのバトルのなかで、レコードラインを外しマシンがアウト側にはらんでいったためだ。このコースアウトで約10秒をロスし18番手に順位を落とすとともに、フロントバンパーやブレーキの冷却ダクトに芝が入ってしまう。それでも40周目には自己ベストとなる1分22秒115をマークして16番手まで順位を戻す。先ほどのコースアウトによって冷却性能が低くなったSYNTIUM LMcorsa RC F GT3は、ブレーキがフェード気味となり苦しい状況となるが、宮田選手が必死の走りでポジションをキープする。

Final Day

全車が規定されている1回のピットストップを終えた51周目には15番手、60周目には13番手まで順位を上げてレースは終盤に突入する。すると64周目にGT300クラスのマシンがクラッシュしたためにセーフティカーが導入される。セーフティカーが入る前の63周目には12番手だったが、セーフティカーラン中に1台がピットに入り、11番手に浮上。レースは70周目にリスタートし、残り7周のスプリントバトルとなった。手負いの状態だったが宮田選手はポジションを守りつつ、隙があれば先行車に仕掛ける。73周目にはドライブスルーペナルティを消化するマシンがピットに入り、ポイント圏内の10番手となる。宮田選手はそのまま10番手でチェッカーを受けたが、レース後に6位に入った87号車ランボルギーニにペナルティが与えられ9位。スタート順位と同じ9位となり2ポイントを獲得した。

Team Comment



Director : 飯田 章

予想通りにセーフティカーが入って難しいレースになりました。前半の吉本選手はミスなく走っていましたが、宮田選手のスティントではコースアウトしてロスタイムがありました。それでも9位でフィニッシュしてポイントを獲得できたことは救いです。ただ、上位を走っているライバル勢とはマシンもチーム力も差があると思っているので、残り2戦に向けて確実な事前準備をしなければいけません。



Driver : 吉本 大樹

スタートを担当したのですが、序盤から耐える展開になってしまいました。ライバル勢はブレーキやトップスピードなどでアドバンテージがあるなかで、RC F GT3は飛び抜けている部分が少ないために抜くまでにいたらなかったのです。後半のスティントでは、今シーズン初めて宮田選手がコースアウトをして順位を落としてしまいました。序盤に順位を争っていたマシンが上位に入っていたので、展開次第ではもっと上に行けたはずですが。得意としていたスポーツランドSUGOで多くの得点を積み重ねられませんでした。その借りは、次戦のオートポリスと最終戦のツインリンクもてぎで返したいです。



Driver : 宮田 莉朋

31周目に吉本選手からバトンを受けてスタートし、5周目にバトルをしながら最終コーナーのアウト側を走っていたときに膨らんでコース外に出てしまいました。このときにフロントバンパーに芝が入ってしまい、ブレーキの熱が抜けなくなりました。そのため50周を過ぎると効きが弱くなり止りづらくなりました。コースオフで10秒ほどのタイムロスもあったので、チームに迷惑を掛けて申し訳ないのと悔しい気持ちでいっぱいです。色々勉強になったレースですが結果が求められているので、次戦はしっかりとチームに貢献します。



● M.NITTA

● Y.NAKAYAMA

Final Day Summary

スタートドライバーとなった中山選手が安定した走りで24番手からポイント圏内へ浮上させるが、避けきれない接触でペナルティを取られ、14位でレースを終えた。

Final Day

年間8ラウンドのシリーズ戦となる2018 AUTOBACS SUPER GT。終盤戦が幕を開ける第6戦「SUGO GT 300km RACE」の決勝レースが9月16日（日）に実施された。

スポーツランド SUGO は K-tunes RC F GT3 の特性に合ったサーキットということで、15日（土）に行なわれた公式練習では3番手のタイムをマークして好調さを示した。しかし、ドライからウエット、またドライへ刻々と状況が変化するなかで、予選では路面コンディションに合わせ切れずに24位と苦戦を強いられることとなった。予選後にはタイヤメーカーのエンジニアを含めたチーム全体で公式練習と予選のデータを検証し、決勝レースへ挑むことになった。



16日は事前の天気予報だと雨の可能性もあったが、午前中から日差しが差し込み汗ばむほどの天候となった。スポーツランド SUGO には2万8500人の観衆が集まり、SUPER GT のプログラムは10時35分の選手紹介から始まった。11時5分から12時までのピットウォークも多くの来場者で人垣ができるほどの盛り上がりを見せる。決勝レース前の最終チェックとなるウォームアップ走行は、12時25分から12時45分に掛けて行なわれた。20分と短い時間のなかで中山雄一選手と新田守男選手の二人が K-tunes RC F GT3 のステアリングを握り、300km の決勝レースに向けてセットアップを確認するとともに余念のない調整を行なった。

決勝レースは、予定通りの14時にパレードラップによって幕を切った。24番手からスタートした中山選手は、1周目に3台をパスして21番手でコントロールラインを通過。

Final Day

3周目までに、さらに3台をパスしてジャンプアップを果たす。その後もトップ10を走るマシンと同等のタイムで周回を重ねて、10周目には17番手、20周目には15番手まで順位を上げる。22周目を過ぎると徐々にルーティンのピット作業に入るチームが現われる。K-tunes Racing LMcorsaは、中山選手のステイントをなるべく伸ばして、ピット作業時間を短縮させて上位を狙う戦略を採った。そのためにタイヤを労りながらラップタイムは落とさずに走るという難しいタスクが



中山選手には与えられた。30周目には9番手となり、さらに上位陣がピットインしていった影響で35周目には4番手、40周目には2番手まで浮上。42周目にはついにトップに立つ、と44周目にピットレーンにマシンを進めた。しかし、このピット作業で想定外の出来事が起こる。中山選手は走行中にコースからラインを外して、クルマ半分がコース脇の芝生を走行したことがあった。その芝がジャッキアップしたマシンのブレーキに触れて、マシンから煙が上がってしまう。咄嗟の判断でメカニックが消火して事なきを得たが、大幅にタイムをロスしてしまう。

新田選手が乗り込んだK-tunes RC F GT3は15番手でコースに復帰するが、ちょうどGT300クラスのポイント圏内を争う集団のなかに入ってしまう。タイヤのウォームアップが終わっていない状態での争いとなったため、ポジションを3つ下げて47周目には18番手となる。それでも51周目には自己ベストタイムとなる1分21秒944をマークして徐々に順位を挽回していく。55周目には15番手、57周目には11番手まで浮上しポイント圏内まであと一歩まで迫る。しかし、60周目のSPコーナーで先行する31号車のプリウスと接触してしまう。K-tunes RC F GT3にダメージはなかったが、31号車はクラッシュしてしまい64周目にセーフティカーが導入される。70周目にレースはリスタートし、K-tunes RC F GT3は9番手を走行していたが、先ほどのピットストップ時の給油行為に対してドライビングスルーペナルティがくだされる。73周目にこのペナルティを消化するためにピットレーンを通じたため14番手まで順位を落として、75周目に14位でフィニッシュした。ゴール後に31号車との接触に対しても競技結果に37秒加算ペナルティが与えられた。チームは、先ほどのピット作業違反の内容確認を求めると、レギュレーションに抵触していない事が判明し、ピット作業違反のペナルティは覆ったものの、ドライビングスルーペナルティが接触に対するものにすり替えられた。

中山選手と新田選手ともに安定したラップタイムで走行し24番手スタートからポイント圏内のフィニッシュが見えていただけに、釈然としない判断によりポイントを失うこととなった。

Team Comment



Director : 影山 正彦

前半のスティントを担当した中山選手は、安定して速いラップタイムで走行して 24 番手スタートから大幅に順位を上げてくれました。ピット作業では、フロントバンパーに付いていた芝がブレーキに触れて煙が出てしまい、作業などで時間が掛かったことが悔やまれます。新田選手が担当した後半もペース良く走っていましたが、ピット作業違反でゴール寸前にドライブスルーペナルティを取られました。結果としてピット作業違反は取り消されたのですが、今度は新田選手のドライブ中に接触したことがこのドライブスルーペナルティに振り替えられました。やや不可解な判定だったのですが受け止めるしかありません。ドライブスルーペナルティがなければポイント圏内でのフィニッシュだったはずなので、残念なレースとなりました。



Driver : 新田 守男

決後半のスティントを担当したのですがピット作業が遅れたことで、GT300 の混戦の中に入ってしまった。マシンのバランスやタイヤのパフォーマンスも良かっただけに、もう少し前に出られていれば違った展開になったはず。SP コーナーでの 31 号車との接触は避けきれないところもあったので、ペナルティが取られたことは残念です。予選は 24 位と不本意な結果となりましたが、決勝レースは両スティントともにペースが安定していて、ライバル勢よりも速かったので結果につながった。結果につなげなかったです。



Driver : 中山 雄一

決勝レースはクルマの状況もタイヤもコースコンディションと合っていたため、24 番手から追い上げることができました。30 周を過ぎるとグリップ感が薄れてペースが落ちてきたので、本来ならばピットインした 45 周よりも引っ張りたかったのですが、安全を期して入りました。レース中に最終コーナーで半車身コースをはみ出たときがあって、そこで芝を拾ってしまいました。想像よりも多くの芝が付着していて、それがピットストップ時にブレーキに触れて煙が出ました。このアクシデントがなければ、もっと上位を走っていたはずですし接触も避けられたはず。決勝レースはペースが良かったので、展開に恵まれずに残念でした。

96



ktunes
RACING

 **M.NITTA**

 **Y.NAKAYAMA**